

文化経済論

担当者 塩田 眞典

開講時期 前期

単 位 2

●講義の概要

現在の経済において、芸術や文化は、科学や技術と並んで、成長や発展の過程における主要な原動力の一つとして評価されつつある。本講義は、情報化社会における芸術や文化が、経済発展に与える影響や機能について、文化経済学の理論と、その応用をふまえつつ、基礎理論から、現代の経済政策への適用に及ぶ展開を行い、文化経済学の今後の展開までを講義する。また、応用論として、国・地方自治体の公共的な文化政策の形成と政策・施策の展開について考察する。

●講義の到達目標

国や地域における文化についての理解を深めるとともに、経済理論を用いて文化政策の意義とその有効性を評価できる能力を身に付ける。

●講義計画

第1回：文化と市場の遭遇

第2回：文化経済学のための市場理論

第3回：文化経済学のための企業者論

第4回：文化企業者論

第5回：新技術の出現と市場経済および文化

第6回：国営部門の民営化についての歴史的事例研究

第7回：市民社会の出現とオペラの変容

第8回：20世紀前衛文化と社会、市場

第9回：文化企業者事例研究 ルイ・ヴェロン

第10回：文化企業者事例研究 セルゲイ・ディアギレフ

第11回：興行システムの制度化と創作活動

第12回：芸術家の多作と寡作の背後にあるものについて①ドニゼッティ

第13回：芸術家の多作と寡作の背後にあるものについて②ムソルグスキー

第14回：批評活動の文化経済学的意味

第15回：まとめ

●成績評価基準と方法

授業テーマへの取組み状況、発表、レポートによる総合的評価

●テキスト又は参考文献

—テキスト—

・塩田眞典『「見えざる手」の痕跡を求めて』晃洋書房 2019年

必要に応じて資料配布を行う

—参考文献—

・池上 惇・植木浩・福原義春『文化経済学』有斐閣 1998年

・池上 惇・山田浩之『文化経済学を学ぶ人のために』世界思想社 1993年

・中川幾郎『新・市民時代の文化行政』公人の友社 1995年

・後藤和子『芸術文化の公共政策』勁草書房 1998年

・池上 惇・渡辺守章監修訳、W.J.ボーモル、W.J.ボーエン共著『芸術と経済のジレンマ』芸団協出版 1994年

・岡田睦生『オペラの運命』中公新書 2001年

●受講上の留意点

授業およびディスカッションへの積極的参加を望む。